

### ■児童・生徒の学力の状況

- ・「全国学力・学習状況調査」の結果から、国語では文章を読んで理解したことに基づいて自分の考えをまとめる内容について、算数では「変化の関係」「データの活用」分野の問題の正解率が低い。
- ・RSTの結果から、文章を読み取る力、語彙力に課題が見られる。
- ・学力の二極化の傾向が見られ、個人間での学力差が大きい。

### ■授業革新推進に向けた、指導上の課題 ※「読み解く力」の育成を踏まえて

- ・個人差の広がりに対し、効果的かつ個別最適な指導工夫が必要である。
- ・児童が基礎基本を確実に定着させるまでの時間を十分に確保する必要がある。
- ・語彙力の乏しい児童が散在する。各教科の中で言葉に着目した指導が必要である。
- ・教科書や資料から情報を読み取り、それを生かして主体的に考える力の育成が必要である。

### ■学校経営方針より（学力向上に関わる内容から）

- ◎自ら進んで「深く考え、判断した」結果、新しい知識や技能を習得することに充実を感じる児童を育成する。
- ◎自分の考えをわかりやすく表現し、共感を得ることに喜びを感じる児童を育成する。
- ◎対話を大切にし、自分と違う考え方、自分の知らなかつた知識、技能に触れることが樂しみにする児童を育成する。
- ◎教師・友達・地域の方と積極的にコミュニケーションを図り、他人と交流する意義を感じながら他人を思いやり、協働することに喜びを感じ、みんなと共生していくことをする児童を育成する。

### ■授業革新推進に向けての具体的な方策

#### 視点1

##### 板橋区授業スタンダードの徹底

- ・各教科の授業において「Input・Think・Output」の活動を設定し、学びの質の向上を図る。
- ・「めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」等の学習の流れを定着させる。

#### 視点2

##### 読み解く力の育成

- ・学習用語をしっかりと押さえ、教科書や資料等から読み取ったことを基に、自分の考えを持って主体的に学習に取り組む活動を毎時間の授業で実践する。
  - ・「共同的な学びの場面」や「ふりかえり」を毎時間の授業に設定する。

#### 視点3

##### 総合的な学習の時間との連携

- ・教科横断的な指導計画を作成する。
- ・子どもの自発的な疑問を大切にし、課題設定→探究活動→表現活動を行い、主体的に課題を設定し探求して得られたことから、自ら出来ることを考え実践しようとする力を育てる。

### ■いたばし学び支援プラン2025の実現に向けた具体的な取組

#### 小中一貫教育の推進 板橋のカリキュラムの活用

- ・小中の9年間を連続した学びとするために、9年間という系統性を意識した研修を実施する。
- ・「めあての設定→自力解決→集団解決→まとめ・振り返り」の授業の流れや「Input・Think・Output」の活動を取り入れた授業を行い板橋区授業スタンダードを定着させる。
- ・学びのエリアで連携した取り組みであるSDGsを年間を通して教育活動に取り入れていくことで、児童の活動意欲を高めるとともに、取り組みを家庭や地域に発信していく。

#### カリキュラム・マネジメントの推進

- ・各教科・領域等との関連を図り、ビオトープ等本校の環境を活用した体験的な活動や人との交流を積極的に取り入れ、コミュニケーション能力を育むとともに愛校心を育む。
- ・総合的な学習の時間については、全体計画・年間指導計画に基づき、総合的・横断的な内容を計画的に取り上げ、目標を踏まえた課題を設定し、問題解決の過程を重視した探究的な学習を展開し、目指す資質・能力を育成する。
- ・SDGsの視点を大切にし、環境や社会における課題について関心と理解を深め、自分にできることをしようとする実践的意欲を育む。

#### ICT環境の適切な維持と活用 個別最適な学び・協働的な学びの実現

- ・一人一台端末を効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを実践する。
- ・組織的活動により、発達段階に応じた端末指導体制を整える。
- ・一人一台端末を活用し、不登校傾向の児童との連絡を密にし、解消へのきっかけとする。